

進路だより

北九州市立特別支援学校
北九州中央高等学園 進路支援部
令和8年2月19日(木)
第34号

◆「北九州市障害者就労プロモーター事業」◆

本校とも連携を取らせていただいている「北九州障害者しごとサポートセンター」では、その事業の一環として「北九州市障害者就労プロモーター事業」を実施されています。

この事業は、障害のある方の職業能力に関する周知・広報を行うとともに、ご本人やご家族等に対する職業能力開発に関する相談を実施するものです。取り組みとして、特別支援学校高等部等を対象とした障害者就労説明会、企業見学、職場体験の実施や、就労移行支援事業利用者を対象とした障害者就業セミナーなどが行われています。

これまでも本校において、就労に関する講演をしていただいたり、体験実習の機会をご提供いただいたりと、たいへん貴重な体験の場を設けていただきました。



◆働くために必要な準備について◆

上記の事業の中で以前、本校にて働くために必要な準備として『仕事が続いている人の行動』と『就業生活に向けて身に付けて欲しい生活力』の2つの内容で話がありました。

仕事が続いている人の行動

- ①休まない 遅刻をしない
- ②挨拶や返事ができる
- ③朝・昼・夕の食事を摂り 健康管理ができている
- ④平日は決まった時間に寝て 決まった時間に起きている
- ⑤人が見ていなくても 変わりなく仕事ができる
- ⑥ルールを守り 分からない時は 上司や同僚に聞いている
- ⑦相談する人がいる 相談できる
- ⑧楽しみがある やりたいことがある

就業生活に向けて身に付けて欲しい生活力

- ①挨拶・返事・お礼が言える
- ②決まった時間に就寝し 決まった時間に起床できる
- ③朝・昼・夕の食事を摂る
- ④困った時は 先生や友人、家族に相談できる
- ⑤学校でのルールを守り 分からないことは確認する
- ⑥適切な言葉遣いをする
- ⑦学校生活を楽しむことができる

話の中で学校生活と就業生活の違いとして、学校生活では教職員の指導やサポートがありますが、就業生活では「指示された仕事を自ら覚え分からない時は自分から聞く」「楽しみややりがいを自分で見つける」など卒業後の働く場は、学校と違って働いて賃金を得る場となりますので、より『自主性や自立性が求められる』という話がありました。

最後に、元気に働く人から見えてくるものとして、以下の3点が大切だとのことでした。

- ①安心できる環境がある
- ②楽しい体験ができている
- ③認められる体験ができている